

残り40日。その2

孫子『兵法』

孫子の兵法は以下の7つに集約されるとしている。

- 1、彼を知り己を知れば百戦して殆うからず。
- 2、主導権を握って変幻自在に戦え。
- 3、事前に的確な見通しを立て、敵の無備を攻め、その不意を衝く。
- 4、敵と対峙するときは正（正攻法）の作戦を採用し、戦いは奇（奇襲）によって勝つ。
- 5、守勢のときはじっと鳴りをひそめ、攻勢のときは一気にたたみかける。
- 6、勝算があれば戦い、なければ戦わない。
- 7、兵力の分散と集中に注意し、たえず敵の状況に対応して変化する。

知るべきこと

故に曰わく、彼を知り己れを知れば、百戦して危うからず。
彼を知らずして己れを知れば、一たびは勝ち一たびは負く。
彼を知らず己れを知らざれば、戦う毎に必ず敗る。

相手を知り、自分を知れば、百戦して負けない。
敵を知らず自分を知っていれば戦いは五分五分である。
敵を知らず自分の事も知らなければ必ず負けるだろう。

つまり、「情報を集めろ」という事である。敵の情報も、そして自分自身の事も、調べつくした上で、「勝てる相手とだけ戦え」と言っているのだ。

あの、『風林火山』も、孫子の言葉である。

『故に、其の疾（はや）きこと、風の如く、其の徐（しず）かなること、林の如く、侵掠（しんりゃく）すること、火の如く、動かざること、山の如く、知り難きこと、陰（かげ）の如く、動くこと、雷霆（らいてい）の如し。
郷を掠（かす）むるには、衆を分かち、地を廓（ひろ）むるには、利を分かち、権を懸（か）けて動く。「迂直の計」を先知する者は勝つ。此れ軍争の法なり。』

「疾風のように早いかと思えば、林のように静まりかえる、燃える炎のように攻撃するかと思えば、山のように動かない、暗闇にかくれたかと思えば、雷のように現れる。兵士を分散して村を襲い、守りを固めて領地を増やし、的確な状況判断のもとに行動する。

敵より先に「迂直の計」を使えば勝つ。これが、勝利への道だ」

「迂直の計」とは、曲がりくねった道をまっすぐにする事。始めは、曲がりくねった道を歩むようであった学習が、最短の道をまっすぐに行くことができるスキルを手にし始めるころだ。

「これだ」という道を歩み始めることができるなら、峠は近い。あとは、まっすぐだ。